

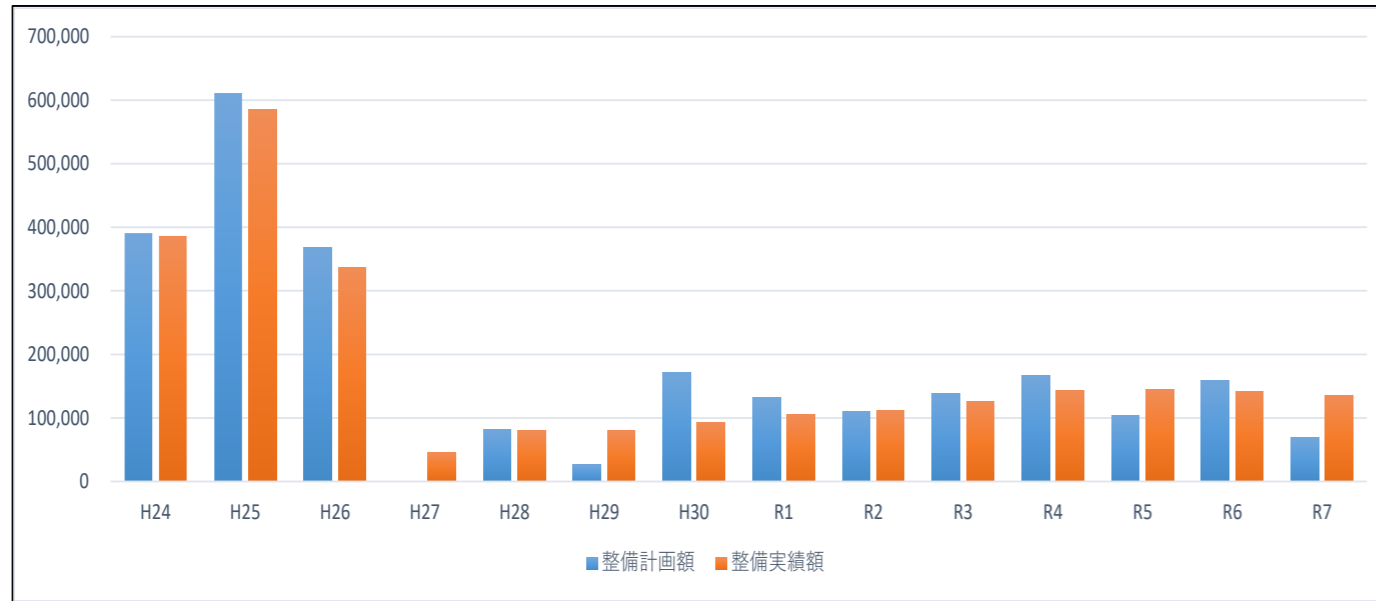
＜改訂の目的＞

一般のごみ処理施設の耐用年数は20年程度と言われている中、本市溶融施設に求められる性能水準を維持しつつ、環境省が推奨するライフサイクルコストの低減を目的とするストックマネジメントの考え方に基づき、施設を30年稼働できるよう平成23年3月に「亀山市総合環境センター溶融施設長寿命化計画書（以下「現行計画」という。）」を策定した。この現行計画において、施設を延命化するため、整備実行計画を作成し、平成24年度から26年度までの期間に基幹的設備改良工事（以下「基幹改良工事」という。）を、平成27年度から令和7年度までの期間に大規模整備工事を実施することを明らかにしている。

そのような中、次期ごみ処理施設の稼働開始目標年度を令和15年度としたことから、更に3年間の延命化を図る必要が生じたため、整備実行計画の見直しを行うことを目的に計画改訂を行うものである。

1. 現行計画における基幹改良工事及び大規模整備工事の実施状況

現行計画では、平成24年度から令和7年度までの期間に、基幹改良工事と大規模整備工事を施工し、施設を令和11年度まで稼働することとしており、令和7年度時点までの整備実績額（税込み）は、基幹改良工事、大規模整備工事を合わせて整備計画額（税込み）2,529,000千円に対して2,516,479千円となっている。



(単位：千円)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7 (見込)	合計
整備計画額	391,000	611,000	368,000	0	82,000	27,000	171,000	132,000	110,000	139,000	166,000	104,000	158,000	70,000	2,529,000
整備実績額	386,190	585,102	337,008	45,769	79,920	79,920	93,420	105,600	112,200	125,400	143,000	145,200	141,900	135,850	2,516,479

2. 延命化の目標年の設定

令和12年3月には現行計画に基づく稼働終了を迎えるが、次期ごみ処理施設の稼働開始目標年度の前年度となる令和14年度末まで、更に3年程度延命化することが可能であるか検討する。検討に当たっては、施設を構成する多種多岐にわたる設備・機器の健全度や整備周期も踏まえ、実施することが望ましい延命化措置（整備）を整理することとした。

年度	経過年数 (H12年4月稼働)	現行稼働期間	備考	検討稼働期間
H22	11	当初稼働期間	基幹改良工事の実施	改訂長寿命化計画で検討した稼働期間
H23	12			
H24	13			
H25	14			
H26	15			
H27	16			
H28	17			
H29	18			
H30	19			
R1	20			
R2	21	現行長寿命化計画の稼働期間	大規模整備工事の実施	改訂長寿命化計画で検討した稼働期間
R3	22			
R4	23			
R5	24			
R6	25			
R7	26			
R8	27			
R9	28			
R10	29			
R11	30			
R12	31	次期施設稼働		
R13	32			
R14	33			
R15	34			

3. 延命化に向けた整備内容の検討・選定

設備・機器の機能診断や整備実績を踏まえ、更に3年の延命化により施設を33年稼働する計画とした場合に、今後必要となる整備を洗い出し、整理した整備実行計画は次のとおりである。

この整備実行計画によると、稼働終了年度の2年前となる令和12年度まで大規模整備工事を継続することとなり、令和8年度以降の概算整備費(税込み)は、総額で677,200千円(機械設備321,100千円 + 電気・計装設備356,100千円)なる見込みである。

33年稼働時の整備実行計画

◇…大規模整備工事

(単位：千円、税込)

設備名	機器名	機器重要度	整備内容	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	合計	
				(R8) 27年目	(R9) 28年目	(R10) 29年目	(R11) 30年目	(R12) 31年目	(R13) 32年目	(R14) 33年目		
機械設備	副資材供給設備	副資材搬送装置	No.1副資材昇降用ホイスト	◇							321,100	
			No.2副資材昇降用ホイスト				◇					
	溶融炉設備	炉頂挿入装置	1号ごみ受けホッパ	側面部更新					◇			
			2号ごみ受けホッパ	底板R部更新					◇			
			側面部更新					◇				
			底板R部更新					◇				
	燃烧ガス冷却設備	ボイラダスト排出装置	1・2号ボイラダスト排出二重ダンパー	B1	本体更新				◇			
	排ガス処理設備	排ガス集じん装置	1号排ガス集じん装置	[天板(中蓋)・底板・側面ケーシング]部分更新			◇					
				スクレパー・減速機・電動機更新				◇				
			2号排ガス集じん装置	[天板(中蓋)・底板・側面ケーシング]部分更新			◇					
スクレパー・減速機・電動機更新								◇				
電磁パルス弁・パルス管更新				◇								
電磁パルス弁・パルス管更新						◇						
余熱利用設備		発電機	A	発電機分解整備				◇				
機械設備 (概算整備費)				19,700	0	98,600	121,800	81,000	0	0	321,100	
電気・計装設備	電気設備	可変速電動機盤	可変速電動機盤	A	INV盤内機器更新		◇				356,100	
			高圧受配電設備	転送遮断装置	A	本体更新			◇	◇		
	引込ケーブル(CVT150㎡)	ケーブル更新・敷設			◇							
		二次ケーブル(CVT38㎡)	ケーブル更新・敷設			◇						
	制御盤(PLC)	主幹制御盤・現場操作盤	A	制御盤PLC他更新、操作盤・中継端子盤ユニワイヤ更新	◇							
		現場制御盤	A	PLC・インバータ他制御機器更新	◇							
非常用発電機	非常用発電機	B1	本体更新(300kVA→270kVA変更)				◇					
電気・計装設備 (概算整備費)				126,500	150,000	51,400	28,200	0	0	0	356,100	
【合計】機械設備 + 電気・計装設備 (概算整備費)				146,200	150,000	150,000	150,000	81,000	0	0	677,200	

2ヶ年工事

注)計画改訂時の概算費用であり、設備の老朽化状況や物価変動等により、整備に必要な費用及び整備年度が変更となる場合があります。

機器重要度	内容
AA	異常燃焼又は公害防止に直接影響する機器
A	ごみ処理のメインプロセスを担い、操業中の故障が炉停止につながる機器
B1	故障が起きてから復旧に長期間かかり、炉停止・公害・異常燃焼・法定に影響が出る機器
B2	故障が起きても復旧に短時間で対処できる機器
C	事後保全でもごみ処理の継続にほとんど影響がない機器